

赤十字新聞

The Red Cross Journal Japanese Red Cross Society publication

編集・発行/日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL.03-3438-1311 一部20円

12 Dec 2009

Vol.835 http://www.jrc.or.jp



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

国際赤十字・赤新月社連盟 会長に近衛忠輝社長が就任

186の加盟社が投票で選出

ケニアの首都ナイロビで11月18日から21日まで開かれた国際赤十字・赤新月社連盟連盟の第17回総会で、日本赤十字社の近衛忠輝社長が第15代連盟会長に選出されました。アジア地域からの会長選出は、90年に及ぶ連盟史上初めです。

各社の連帯精神を今こそ

近衛社長は今年9月に会長選挙へ立候補するにあたり、連盟各社が「Solidarity (solidariness) (連帯の精神)」を発揮していく必要性を提起。具体的課題として「被災者のために連盟の災害対応能力の強化」「各社の事業遂行能力向上のための組織基盤強化」「人道外交、国際社会に対する人道問題への注意喚起の推進」などを訴えてきました。



当選が決まり周囲から祝福を受ける (11月19日ナイロビ ©Thomas Omond/IFRC)

連盟会長の任期は、1期4年間(2期まで)。会長には、連盟総会や理事会を召集し、議長を務める役割以外に、国連本部など主要会議での演説、各社の意見統一と調整などの任務が課せられています。日本赤十字社は近衛社長の会長就任を機に、日本の皆さまとともに、赤十字運動をより一層広めていきたいと考えています。

国際赤十字・赤新月社連盟とは?

第一次世界大戦後、米英仏伊日5カ国の赤十字社が提唱し、1919年に設立されました。世界186の国と地域の赤十字社・赤新月社が加盟しています。

各社の人道的活動の支援・推進、災害時の国際救援活動、保健・福祉問題などに関する調整などが任務です。

世界最大の人道的ネットワークで、国連総会ではオブザーバーとしての地位を持っています。1963年には、赤十字国際委員会(ICRC)とともにノーベル平和賞を受

賞しました。

近衛忠輝プロフィール

赤十字の創始者アンリ・デュナンと同じ5月8日(1939年)生まれ。学習院大学卒業後、ロンドン大学(国際関係論)留学。1964年日本赤十字社入社。計8年間の連盟本部(ジュネーブ)勤務を含め国内外で赤十字事業に携わり、2005年4月、日本赤十字社社長に就任。同年11月からは連盟の副会長も兼務してきました。

海外 義援金募集中 たすけあい



日本から派遣された看護師がワシッド村の保健所でボランティアに脈のとり方を教える(勝占看護師・徳島赤十字病院)

苦しんでいる人を救いたい

—その思いは国境を越えます

紛争や災害、貧困で苦しむ世界の人に手を差し伸べたい—一人ひとりの気持ちを具体的な支援へとつなぐ「海外たすけあい」が今年も12月1日から始まりました。

海外たすけあいは、日本赤十字社とNHKの共催で1983年にスタート。集められた義援金は武力紛争犠牲者や自然災害被災者への支援、途上国の保健衛生状況の改善などに使われています。

フィリピンの貧しい山間の村落を対象にした保健医療支援事業は2005年にスタートしました。最も近い医療施設まで徒歩で数時間かかり、感染症が多く発生しながらも保健サービスを受けることができない村落に保健所を建設・改修

スマトラ島沖地震・津波被害から5年

「日本からの支援は大きな励まし」

被災者がお礼の言葉



藤原紀香さんの左肩にかかっているのがプレゼントのストール

2004年12月のスマトラ島沖地震・津波被害から5年。日本赤十字社による支援と被災地復興の軌跡を記録した写真展「Believe in Tomorrow」明日を信じて」が11月に都内で開かれました。その開催にあたり、日本からの支援にお

礼を述べました。自宅を失うなどの被害を受けたマテイアティさんは被災直後から現在まで、救援・復興の支援活動を続けてきた赤十字ボランティア。「日本の皆さまの励ましは大きな力になりました」と感謝の言葉を述べ、赤十字広報特使の藤原紀香さんにインドネシアの伝統的なストールと現地の中学校生たちが書いた感謝の手紙を贈りました。

記者会見では日赤の近衛忠輝社長もあいさつ。日赤の支援により、2202戸の住宅建設や31の医療施設再建、マンクロープ80万本の植林などが行われてきたことを報告しました。

音楽通じた社会貢献 20周年迎える 献血チャリティー・コンサート



対談

御木本澄子 ミキモト 名誉会長

近衛忠輝社長



第1回(1990年)のコンサートパンフレット

献血や血液に関する問題への関心を高めようと、1990年から毎年開かれている「MIKIMOTO 日本赤十字社献血チャリティー・コンサート」(主催・財団法人ソニー音楽芸術振興会)。ミキモトグループは、当初からこのコンサートに協賛されています。来年、20周年という節目を迎えるにあたり、株式会社ミキモトの御木本澄子名誉会長をお迎えして、企業の社会貢献や音楽について近衛忠輝社長とともに語っていただきました。



近衛忠輝社長

近衛 御木本さんは昔からチャリティーに熱心に取り組んでおられましたね。
御木本 国際福祉協会にかかわっていたので、毎年秋になるといろいろな会社へ寄付をお願いしていました。外国ではチャリティーがさかんですが、日本にはそうした文化がまだ根付いていません。

「質の高い」にこだわりたい

近衛 個人に対しても「いいことをやっているから協力してください」という従来のようなチャリティーは、長続きしないと感じています。楽しみながら社会の役に立つというやり方ではないと。
御木本 音楽をやっている立場から申し上げますと、献血チャリティー・コンサートでも、いい演奏家を選んで質の高いコンサートを提供してほしいと願っています。



御木本澄子・ミキモト 名誉会長

「コンサートの理念に共感して」

プロフィール (株)ミキモト元社長夫人。ピアニストの間で知られる独自のトレーニング法「ミキモトメソッド」を考案。

御木本 このコンサートが始まったのは、エイズ問題などが発端となり、国内で必要な血液の一部を輸入に頼っていることが大きな社会問題になった時期でした。献血によって、誰もがいつでも安全に治療を受けられるようにとの思いから、コンサートの収益はすべて献血運搬車の購入・整備費用にあてられています。



財団法人ソニー音楽芸術振興会が主催し、ミキモトグループが協賛する「日本赤十字社 第41回献血チャリティー・コンサート」が2010年1月12日(火)午後7時から、東京のサントリーホール(港区)で開催されます。このコンサートは、国民に献血や血液に関する理解を深めてもらおうと1990年から開催されているもの。収益金は日本赤十字社へ寄付され、献血運搬車の購入・整備資金にあてられます。

新年を飾る献血チャリティー・コンサート

お問い合わせは、03-3261-9933(ソニー音楽芸術振興会)まで。

近衛 お振りの合いとは、銀行にも行きませんが、銀行は「お振りの合い」なんです。御木本 「あそこがいくら出したのなら、うちも出す」とバランスを重視するんです。ちなみに、日本を代表する銀行からも寄付をいただいたことがあったんですよ。周囲からは「寄付なんてしないところだ」と言われていたのですが(笑)。

日常を忘れられる時間

近衛 芸術を担う若手を育成することは、赤十字の理念である奉仕の心とも通じる点があります。御木本 そうかもかもしれません。それと、世の中には嫌なことたくさんありますが、音楽を演奏している時は、そういうことが短時間でも忘れられます。私も夫の具合が悪くなつてからはいろいろな苦労をしましたが、そうしたことを忘れられる何かを持つことは、人間にとって大切なことだと思います。

近衛 観客も、コンサートホールで音楽を聴いている間は日常の嫌なことを忘れることができますからね。

近衛 ミキモトグループが20年間も協賛していただいていることに改めて感謝申し上げます。観客の皆さんに楽しんでいただけるコンサートになるよう、私どもも願っています。



120周年記念大会を各支部で

高円宮妃殿下ご臨席

今年日本赤十字社の多くの県支部が創立120周年を迎えています。これを記念して各県で記念大会が開催されました。

長野県支部は10月23日、日



高円宮妃殿下から「尊い使命を思い起こし、ますます精進を」との励ましをいただきました

本赤十字社名誉総裁高円宮妃殿下にご臨席を仰ぎ、120周年記念大会をホクト文化ホールで開催。県内赤十字関係者約2000人が出席しました。760の個人、法人・

団体には有功章、感謝状が贈られ、高円宮妃殿下からは、大会を機に赤十字の尊い使命をあらためて思い起こされ、ますます精進されることを願います」とのおことばをいただきました。

三重県支部は10月15日に高円宮妃殿下ご臨席のもと三重県総合文化センターで記念大会を開催し、関係者約700人が出席。高円宮妃殿下から、赤十字事業の推進に顕著な功績のあった個人・法人に有功章が贈られました。

福島県支部は10月28日、郡山市のビッグパレット福島を会場に記念大会を開催。赤十字関係者約900人が参加し

ました。

式典では、赤十字事業の進展に貢献された473の個人や団体を表彰。青少年赤十字メンバーと赤十字奉仕団員による体験発表を行い、赤十字活動の一層の発展を呼びかけました。

30年ぶりの大きな大会となった記念大会で祝ったのは愛媛県支部。松山市総合コミュニティセンターに約1000人が集まり、赤十字精神のさらなる高揚を誓いました。

愛媛県知事でもある加戸守行支部長は「赤十字運動の原点に立ち、社会のニーズを的確にとらえて、赤十字の使命をはたしていきましょう」とあいさつ。参加者全員で「世界の平和と人類の福祉向上を切に願ひ、人道的活動を実践する」との大会宣言を採択しました。

規則の改正について
（日本赤十字社職員給与要綱の一部改正）

予算の補正について
（東北地域における製剤業務の集約にかかる宮城県赤十字血液センターの新棟建設用地取得等に伴う血液事業特別会計歳入歳出予算の補正）

審議の結果、原案のとおり議決されました。また、平成21年度NHK海外たすけあいの、予算の補正にかかる10月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

常任理事会開催報告

平成21年11月20日、本社において平成21年度第7回の常任理事会が開催されました。審議結果は左記のとおりです。

付議事項

規則の改正について
（日本赤十字社職員給与要綱の一部改正）

予算の補正について
（東北地域における製剤業務の集約にかかる宮城県赤十字血液センターの新棟建設用地取得等に伴う血液事業特別会計歳入歳出予算の補正）

審議の結果、原案のとおり議決されました。また、平成21年度NHK海外たすけあいの、予算の補正にかかる10月分の社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。

理事会審議報告

平成21年10月16日、理事会に文書による付議が行われ、審議結果は左記のとおりです。

付議事項

予算の補正について
（岡山赤十字病院増築等に伴う土地取得にかかる医療施

設特別会計歳入歳出予算の補正）

今回の審議は、不動産の取得時期の関係から文書をもって理事会に諮られました。理事会の構成役員（社長、副社長及び理事）現員61人のうち、58人から回答が寄せられ、58人全員が賛成しましたので、平成21年11月13日付で原案のとおり議決されました。

わかりやすく役に立つ 赤十字幼児安全法で子どもたちの安全・安心をサポート



赤十字幼児安全法は、家庭内での幼児の事故防止や手当方法を普及するもの。とびらに手を挟まれないようにする工夫や洗濯機への落下防止法、のどに物を詰まらせたときの対処法などが学べます。平成12年度から全国的な普及活動が認められています。

日本赤十字社の「赤十字幼児安全法講習」がこのほど、第3回キッズデザイン賞（キッズデザイン協議会主催、経産省後援）を受賞しました。同賞は、子どもたちの安全・安心に貢献するデザインなどに贈られています。受賞作品は、キッズデザインマークを使った普及活動が認められています。

親子で楽しみながら キッズデザイン賞を受賞

岐阜県支部では10月15日、岐阜県関市桜ヶ丘ふれあいセンターで幼児安全法講習を開催。22組の親子が参加しました。講習では、子どもたちに交

すくすく子育てサポート講習（岐阜県支部）



キッズデザイン賞を受賞

シンボルマークのコンセプトは「割れた形、壊れてはじめて気づく子供の安全・安心」です。

親子で楽しみながら

法を学ぶ「すくすく子育てサポート講習」を開催。22組の親子が参加しました。講習では、子どもたちに交

保育士や幼稚園教諭、子育て支援者などを対象にした講習を行ったのは宮崎県支部。10月27日に宮崎日赤会館で開催し、31人が参加しました。受講した保育士の先生は「いざという時にあてないで処置ができるか心配ですが、講習で少し自信ができました」と話していました。

2010年版 赤十字カレンダー

2010年版の赤十字カレンダーは、赤十字思想誕生の地で開催された150周年記念行事等の写真をもとに、150年後の今も引き継がれるアンリー・デュナンを思いを込めてB3判の中綴り型カレンダーとなっております。下記の通り、販売いたしますので、是非ともご利用ください。販売先は各支部です。



閉じた状態：B4サイズ (257×364mm)



開いた状態：B3サイズ (364×515mm)

お申込み方法
以下のいずれかでお申込みください。
(1) 申込手段
・電話 03-3437-7516
・FAX 03-3459-1432
・メール info@nisseki-service.com
・ご来店 日本赤十字社本社1階(平日9時~17時) 榎日赤サービス 〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3
(2) 伝達事項
ア. 件名 2010年版カレンダー購入希望
イ. 本文 ①部数②お名前(フリガナ)③お電話番号④送付先ご住所(郵便番号含む)

* 限定3,000部 (在庫が尽き次第、販売終了)
* 1部700円(税込・送料別)
* 仕様
・月間(12ヶ月各見開き1頁)
・年間(2009・10・11年の3ヶ年)
詳細は 榎日赤サービスホームページにて www.nisseki-service.com

世界に笑顔を取り戻すには、あなたの支援が必要です。

「海外たすけあい」12月1日～25日

たくさんあります 100円でできること

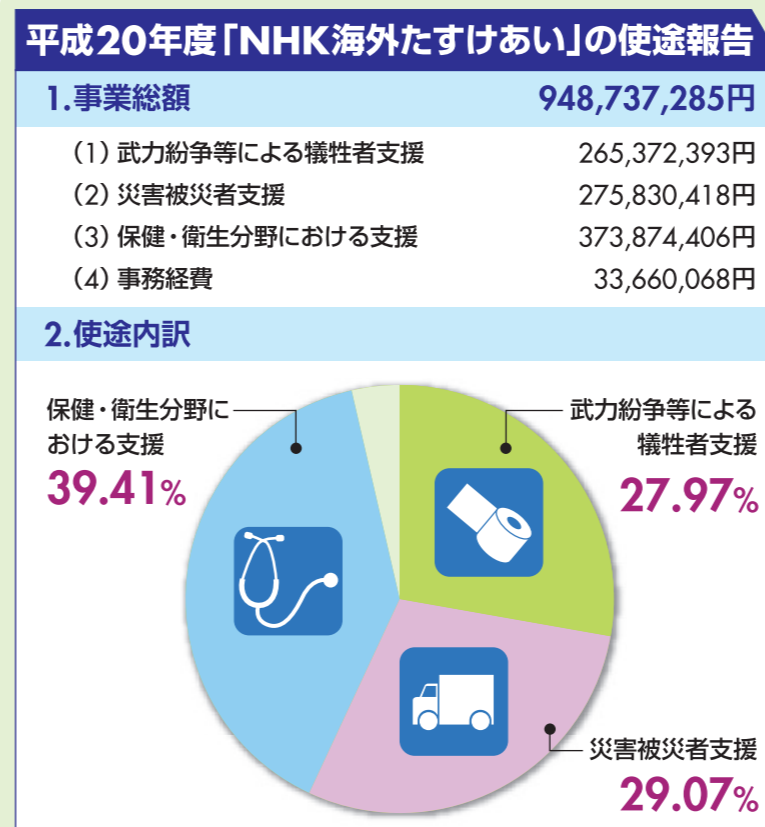
日本赤十字社がNHKと共同で取り組む「海外たすけあい」が今年も12月1日にスタート。25日まで、全国で募金を受付中です。集められた義援金は、アフガニスタンなどの紛争犠牲者支援、台風や地震による被災者支援、アフリカを中心とした開発途上国への保健衛生支援などに使われます。一人ひとりの善意は支援に形を変え、紛争や貧困、災害で苦しむ人々の笑顔と未来をつくり出しています。

日本では、自動販売機で缶コーヒーの1本も買えないことがある100円。このお金でどんな支援ができるでしょうか？

学習キット3セット

例えば、政府軍国際部隊とイスラム武装勢力との内戦状態にあるアフガニスタンです。日赤は看護師3人を派遣するが、そのための旅費や食料、現地での生活費など、費用は莫大です。また、アフガニスタンの医療施設は、ほとんど壊滅状態です。日赤は、アフガニスタンの医療施設を支援し、また、アフガニスタンの医療従事者を養成するための教育支援もしています。100円がマングロープを植林するとき

蚊帳1張
干ばつや劣悪な衛生環境による感染症が多くの子どもや妊婦の命を奪っているケニアで、日赤はケニアの子どもの命を救う地域保健強化事業「HIPP」をケニア赤十字社とともに実施しています。例えば、100円が5枚入りのマングロープの苗を100個分、これまでに東京11m2100個分の広さにマングロープを植林してきています。



命をつなぐ 食糧支援

ジンバブエ HIV・エイズ対策事業を日赤が支援



今年4月からジンバブエに駐在する森本さん

アフリカ南部のジンバブエは、10年程前から農業や経済の状況が急激に悪化。さらにHIV・エイズ感染が世界最悪レベルに達するなど、保健衛生分野も危機的な状況に陥っています。

必要とされる人に支援を 日赤職員がモニタリング

HIV・エイズ対策として行われているのは予防教育や在宅訪問看護、孤児支援など。また、患者やその家族などへの食糧支援も実施されています。

「学校に行けない、薬が買えない」
「事業継続を左右する義援金」



「配付拠点は96カ所、1カ所平均2000人分です。地元の人々が配ります。私はずっと一緒に立ち回っています」
「向いて1カ月分の食糧がまとめて配られます。1人1日2000キロカロリーの計算で1キロの粉10キロ、豆1.8キロ、食用油1リットル、小麦粉2キロ、コーンと大豆のブレンド3キロの合計5キロ。これが人々の命をつなぐのです。」

海外の大規模災害への備え

マレーシアの備蓄倉庫 義援金で救援物資を整備

大規模災害が地球のどこで発生しても、被災者救援を迅速に行えるよう、国際赤十字・赤新月連盟(連盟)は世界3カ所に大規模な備蓄倉庫(ロジスティック・ユニット)を設置。合計6万世帯分の救援物資を平時から備蓄する。

マレーシア・太平洋地域のロジスティック・ユニットが置かれていたのは、マレーシアの首都クアラルンプール。

- 2007年のバンクランジュサイクロンや2008年のミンダー・サイクロン、中国地震などの際にも、この倉庫に備蓄されていた日赤の救援物資がすぐに被災地に届けられ、被災者支援に役立てられました。
- 現在、連盟はここに2万世帯分の救援物資を備蓄しており、日本赤十字社では全体の半分にあたる1万世帯分の整備を受け付けています。
- ① テント 1張
 - ② 毛布 5枚
 - ③ ヒールシート 2枚
 - ④ 蚊帳 2張
 - ⑤ 衛生用品セット 1セット
 - ⑥ キッチンセット 1セット
 - ⑦ 飲料水用容器 2コ
 - ⑧ 工具セット 1セット
- 救援物資の整備費用は、購入・保管料を含めて1万世帯分おおよそ2億5000万円。

紛争で傷つく市民を救いたい

パキスタンの戦傷外科病院から 看護師 松近真紀(日赤和歌山医療センター)



今年7月からパキスタンで働く松近です。日本の皆さまにここでの活動をお伝えします！

パキスタンでは2008年8月以降、政府軍と対抗勢力の戦闘が激化し、190万人が犠牲者を出しています。戦傷外科病院には、戦傷や爆破事件などによる負傷者が日々運ばれてきます。すべての患者さんは、爆弾や地雷、銃創による負傷者、子どもや女性も含まれていて、手足を切断された重傷の方も少なくありません。日本では決してありえない手術です。こうした患者さんへの手術を1日に10件行っています。

ICRCでは、避難民への食糧援助や健康管理のサポートも行っています。また、戦傷外科病院では、理学療法士によるハビリテーションも行われていて、負傷者の方が元の生活に戻れるよう支援をしていますが、負傷者の方が多いです。国際チームは各国赤十字社の医師、看護師で構成されています。国際チームは各国赤十字社の医師、看護師で構成されています。

先の見えない戦闘

過去にも私は、パキスタン北部地震被災者救援やシンドウのコレラまん延の緊急支援など、何回かの国際救援活動に従事してきました。しかし、戦闘地域での救援活動は初めての経験。今までに感じたことのない切迫感や、やるべきことを果たすことができないという不安を感じています。



クアラルンプールの倉庫はテニスコート約100面分の広さ
緊急時にはチャーター機で物資を運ぶ
被災国では、その国の赤十字ボランティアが配付

EVENT

dansa

菅原一剛写真展「dansa『とてもとてもありがとう』」
～日本赤十字社 ケニア活動現場より～

日本赤十字社が保健衛生事業を支援しているケニアを写真家の菅原一剛氏が取材し、活動現場を撮影した写真展を開催します。「dansa」は、ケニアで「最上級のありがとう」を意味する言葉です。開催に先駆け、12月1日に行われるオープニングセレモニーには今年3月にケニアを訪れた赤十字広報特使の藤原紀香さんも出席。「海外たすけあい」の義援金はどう生かされているのかを報告いただけます。

■日時 / 12月2日(水)～21日(月)
11:00～20:00(最終日は17:00まで)
■場所 / 銀座リコーフォトギャラリー RING CUBE
TEL.03-3289-1521
■住所 / 東京都中央区銀座5-7-2 火曜定休/入場無料



スマトラ島沖地震・津波被災者 ラマディアティさん

ラマディアティさんは学生ボランティアとして、以前からい



支援へのお返しをいつか

被災当時の様子を近衛社長に説明するラマディアティさん(右)2005年5月

「復興で建物などは元のようになり...」

民族生物学を学ぶラマディアティさんは地震発生当時...



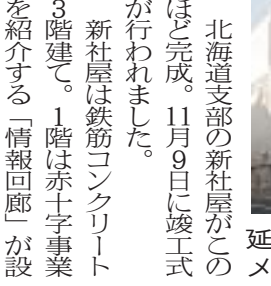
「青赤の道」を披露する齋藤君

高校生が JRC の歌を 福 島 作 曲

「青赤の道」 作詞・作曲 齋藤 晃真(福島県立光南高等学校)

大会の最後に福島県立光南高校の齋藤晃真君の作詞・作曲による JRC の歌「青赤の道」が披露されました。

クローズアップひと



延べ面積は1995.95平方メートルにもなる新社屋

北海道支部の新社屋がこのほど完成。11月9日に竣工式が行われました。

コンビニエンスストアのセブン・イレブンなどを傘下に持つ株式会社セブン&アイ...

心からの寄付に感謝 セブン&アイから3600万円余が日赤に



社会文化開発部シニアオフィサー藤本圭子さんとセブン・イレブン足立東綾瀬店オーナー石黒充さんから日赤大塚副社長に目録が手渡されました

店舗で実施されたもの。店舗利用者や取引先、加盟店オーナー、各社従業員から募金が寄せられました。

コンビニ株式会社からベビー用品のご寄贈

県支部に100万円の高額寄付

12月号懸賞クイズ



◆We are シンセキに同感—黒田きょう子さん(取手市)

◆「Voice」と懸賞クイズの応募方法

◆岩手・宮城内陸地震の際の奉仕団活動に感謝—森元博美さん(仙北郡美郷町)

今月のプレゼント

11月号の懸賞クイズの答え

「復興で建物などは元のようになり...」

「復興で建物などは元のようになり...」

報告REPORT

命を救う“種”を砂漠に

イラクで救急医療を指導 / ICRC 事業

小川 里美 看護師 (京都第二赤十字病院)



イラク戦争後も宗教対立などによる爆破テロ事件が続くイラク。この紛争の地にも日本赤十字社の看護師2人が派遣され、赤十字国際委員会(ICRC)の人道支援活動に従事しています。その1人、京都第二赤十字病院所属の小川里美看護師が先ごろ一時帰国。取り組みの現況を報告しました。



戦争が招いた医療の崩壊

いまイラクでは、テロ攻撃や爆破事件が人の集まる街中をターゲットに行われています。戦争にもルールがあるはずなのに、そんな常識は通用しません。女性も子どもも関係なく、無差別に市民が殺されています。

テロ掃討作戦が激しかったころに比べると半減しましたが、それでも毎月の死傷者は1500人にも達しています。また、イラクでもう一つ恐いのが交通事故です。事実上交通ルールがない状態で、ひんぱんに重大事故が発生しているのです。

ところが、爆破テロや交通事故での負傷者を救うための救急医療がイラクではほとんど機能していません。医師も看護師も救急現場での初期対応ができないのです。

この背景にあるのが、イラン・イラク戦争から湾岸戦争、そしてイラク戦争と30年にも及ぶ戦争です。イラクはもともと教育水準が高く、医療レベルも決して低くありませんでした。しかし、戦乱や経済制裁の結果、医療技術・知識を最新のものに更新していく教育や研修が行われてこなかったのです。

救急医療改善への熱い思い

こうした事態にICRCは、救急医療を担う医師、看護師を育てる支援事業を行っています。今年5月からのパイロットプロジェクト(テスト)を経て、10月から2年間の予定でスタートさせました。ICRCのスタッフとして7月に赴任した私はいま、トレーニングマネジャ

ーとしてかかわっています。

拠点となるのは、比較的治安が安定しているイラク南部の町ナジャフと北部のスレイマニアの2カ所の救急病院。各地の病院から医師と看護師のチームを派遣してもらい、救急医療について3週間の集中トレーニングを行います。

研修に参加している医師の多くは若いドクター。一方、看護師は若い世代に交じって40代、50代のベテランの方も参加しています。ほとんどが「学校を卒業してから初の研修が今回の赤十字研修」という方ばかりです。皆さんちょっとの間を惜しんでノートを取り、講義の後にも質問をするなど、学ぶ姿勢は本当に真剣。これからのイラクの救急医療の水準を高め、一人でも多くの命を救うんだという思いが伝わってきます。

イラクの看護師から学んだ「人道」

長年の戦禍でイラクの病院は悲惨な状態が続いていました。医療資材は不足し、給料もまともに支払われない。「生活ができない」と多くの医師・看護師が病院を去りました。いま、病院で働いているスタッフは、そんな状況下で医療を守った人たちです。

これは勇気あるすごい行為です。私は生活の保障があって赤十字の活動に従事していますが、彼らは違う。なぜそんな頑張れたのかという質問に、ある看護師の方は「患者を見捨てるわけにはいかない」「私たちを頼ってくる人がいる」と答えてくれました。

こうした彼らの行動こそが「人道」なんだ



医師、看護師が自由に意見を交わし真実に学ぶ受講者たち。中央が小川看護師

と、私は心から感動しました。研修で教える立場の私たちですが、医療・看護の倫理や責任については彼らから多くを学んでいます。

イラクはいまさまざまな問題を抱えています。ですから、彼らが研修で学んだ救急医療の知識や技術がすぐに各病院にフィードバックされて、全体の水準が劇的に変わることはないかもしれません。しかし、研修事業の成果は、必ず人から人へとつながっていくはず。私たち赤十字はそれをサポートしたい。時間はかかっても必ずその成果は結実すると思っています。砂漠にまいた種にいつかは芽が出て、緑の大地に変わっていくことを信じています。

日赤が中国紅十字会特別賞を受賞

中国大地震の復興支援は平和と友好の証



受与されたメダル(右が人道賞)と、北京の人民大会堂で行われた式典に参加した位坂さん

昨年5月の中国大地震。その被災地復興支援事業を行っている日本赤十字社は11月12日、中国「国際科学技術・平和週間」の組織委員が選考する「中国紅十字会特別賞」を受賞しました。また、日赤の現地駐在員位坂和隆氏には同組織委員から「人道賞」が贈られました。

国際科学技術・平和週間は国連が定めるもの。中国では科学技術、平和促進にかかわる市民団体や工業・商業連合会、大学などが合同で組織委員会をつくり、12日から1週間、全国でさまざまなイベントが行われました。

中国紅十字会特別賞は今年から新設された賞。日赤の受賞は、全国から寄せられた51億円にも及ぶ救援金による復興支援と、それがもたらした日中友好の促進が評価されたものです。

人道賞を受賞した位坂駐在員は、「再建を支援している学校や病院には完成したものもあれば、これから建て始めるものもあります。この賞は、日赤への感謝と励まし。その期待を裏切らないよう、まい進していきたい」と受賞の喜びを語っています。

今年の中国紅十字会特別賞は日赤とともに国際赤十字・赤新月社連盟、米国赤十字社、ドイツ赤十字社が受賞しました。

救命と安全の技術をアジアへ

日赤職員が現地で人材育成

災害などいざという際に家族や周りの人の命を守る救急法や水上安全法。日本赤十字社ではこの技術を災害多発地アジア6カ国の赤十字社に普及する取り組みを進めています。

東ティモールでの救急法等普及支援事業は2004年にスタート。東ティモール赤十字社に専門的な保健衛生部門を確立し、住民にも救急法の基礎知識を広げていくことが目的です。日赤は、指導員派遣や必要な資機材の提供などを行っています。

神奈川県支部の鈴木賢一郎救護係長は今年9月、救急法指導員への技術指導のため東ティモールに派遣されました。「医療や救急体制が未発達で、赤十字への期待は大きい。救急法を必要とする機会は多く、私の指導した



ことを実践しようという高い意識がありました」と現地の反応を語ります。

スリランカでは2006年から昨年まで水上安全法普及支援事業を展開。スマトラ島沖地震の際の津波被害が大きかったガンパハ地区の赤十字支部に日赤から指導員を派遣し、支部職員やボランティアに水上安全法の知識と技術を教えてきました。

今年10月に事業評価のために同国に派遣された千葉県支部救護福祉課の青木英憲主事は、「週末には支部のボランティアが海岸をパトロールし、これまでに180人を超える命を救いました。日赤指導員が伝えた技術は受講者へと引き継がれ、事故の際にその力を発揮しています」と話しています。

津波で大きな傷を負った受講者もいる。被災者が救助者となっていく姿は頼もしい(スリランカ)

